

**令和6年度 一般選抜前期日程 情報科学部情報科学科 小論文**  
**出題の意図と解答の傾向**

**【出題の意図】**

本問題では、『情報源の多様化』に関する3つの資料から、文章の理解およびグラフの読み取りを通じて問題を分析し、その問題に対する自らの意見を論述する能力を評価した。資料1は小林啓倫『不安を和らげる「情報源の多様化」～無意識の「エコーチェンバー構築者」にならないために～』（論座アーカイブ）を用いた。「なぜ情報源を多様化すると不安が和らぐのか」という問いを立て「エコーチェンバー構築者」と「ダイバーシティ模索者」という分類とそれらの情報源への接し方を観察することで、「情報源の多様化」と「不安」との『相関』の理由を推測している。資料2、3は渡辺洋子、政木みき、河野啓『ニュースメディアの多様化は政治的態度に違いをもたらすのか～「ニュースメディア接触と政治意識」調査から～』（放送研究と調査）から引用した。資料2は、ニュースに接する際に用いられているメディアと、利用割合を表すグラフである。資料3は、それらのメディアのうち最も利用されるメディアについて、全体および年齢別、男女別に示したグラフである。

情報源の多様化の実態と社会に対する影響について、資料を読み解き要点をピックアップすることがポイントとなる。さらに、読み解いた内容に関して、自らの関心にもとづき実社会における具体的な課題を取り上げて意見を述べることで、データの読み取り能力、社会への関心、論理的思考と表現力を問うた。

**【主な採点基準】**

問1

筆者の『意識的に「自分の主義主張とは異なる情報源」を探しに行かないと、情報の多様性は広がらない』という意見にいたった理由を、筆者の意見に沿って要約する問題である。まず、「なぜ情報源を多様化すると不安が和らぐのか」の原点である「ダイバーシティ模索者」は「エコーチェンバー構築者」よりも現在の出来事に対する不安のレベルが低いという相関関係を説明することで、文脈に沿って「ダイバーシティ模索者」のメリットが述べられている必要がある。さらに、デジタル情報源の特性を挙げながら意識的に多様な情報源を探す必要がある点を説明できていれば評価した。

問2

2つの資料から読み取れる内容を説明する問題である。ニュースを見聞きする人のうち、放送（あるいは「伝統メディア」）を利用する人の割合が90%以上と非常に多い。ネット系メディアを利用する人は半分よりやや多い程度で、放送よりは少ないが多様なメディアが利用されている点を説明できていること。大きな分類で説明されていなくても、個々のメディアの数値が示され、内容に整合性が見られた場合には同様に評価した。

年代別では、若年者ほどインターネットやSNSを利用する人が多く、高齢者ほどテレビメディアの割合が高い傾向があること、性別では大きな差はない点を両方指摘していれば評価した。また、年代別、男女別に説明されているものであれば、個々のメディアの差異に触れていた場合でも評価した。

### 問3

情報源の多様化による社会への影響を具体的に示し、それに対する自らの意見を述べる問題である。具体的な社会への影響を本文の趣旨に沿って正しく示していれば評価した。さらに、情報源が多様化していることに関連して問題を指摘できており、その問題に対する自分の考えを正しく説明できていれば評価した。具体的な社会問題であれば、多様化による影響がネガティブかポジティブかは問わなかった。

#### 【解答の傾向】

##### 全体的な傾向

- ・文章が長文でだらだらと記載されているため「何を言いたいのか」が不明確である解答や、文章構成が悪く端的に主張したい内容を示せていないケースが多く見られた。下書きをして、文字数の制限内でまとめることができるように文章の構成を考えてから解答するべきである。
- ・記載文字が判読困難なケースが散見された。
- ・全体的に、論理的な作文技術を教えられていないように見受けられた。作文技術の学習には、例えば「木下是雄著 理科系の作文技術 中央新書」のような教材を用いることもできる。
- ・文脈または主・述のねじれが散見された。
- ・ごく少数であるが、消しゴムを使わずに訂正線を入れて書き直している解答があった。

### 問1

- ・資料を読み取って要点をまとめることが求められる設問であるが、資料の読み込みが不十分である解答や個人の考えをまとめただけの解答が一部で見られた。
- ・求められている解答は、①「エコチェンバー構築者とダイバーシティ模索者の間での不安感の差について言及する。」②「デジタル情報源の誘導技術（AI、レコメンド等）により積極的に自分の主義主張とは異なる情報源（多様な情報）の探索が必要になることについて言及する。」の二つであるが、①しか解答できていないケースが7割ぐらい存在した。

### 問2

- ・資料全体をまとめる総括的な意見を述べるというよりも、資料内の一部を取り上げて述べる回答の方が多かった。総括的な意見であれば内容が薄くなりがちであり、一部を取り上げた解答は狭小な意見となっていた。読み取れた内容に関して、強調するポイントを明確にしてから解答するべきである。

### 問3

- ・必要な文字数を書ききれていない受験生が散見された
- ・具体例を挙げて、自身の考えを書くという問いであったが、具体例を挙げたが自身の考えが十分に

説明されていないもの、考えが書かれているが例示がないものは高く評価できなかった。

- ・出題の意図は比較的読み取れていたように見受けられる。

出典について：資料1 朝日新聞デジタル 2019年7月30日『不安を和らげる「情報源の多様化」～無意識の「エコーチェンバー構築者」にならないために～』小林啓倫

朝日新聞社に無断で転載することを禁じる（承諾番号 24-0780）